

予報期間 1月5日から1月11日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 7日は、低気圧が日本海北部へ進み、別の低気圧が日本の南を東進する。
- 8日は、日本海の低気圧が発達しながらオホーツク海へ進み、前線が北日本付近を通過して、日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 9日は、冬型の気圧配置は緩み、高気圧が本州付近から日本の東へ移動する。低気圧が日本海へ進む。
- 10日は、低気圧が北日本付近を通過して11日にかけてオホーツク海へ進み、日本付近は冬型の気圧配置となる。

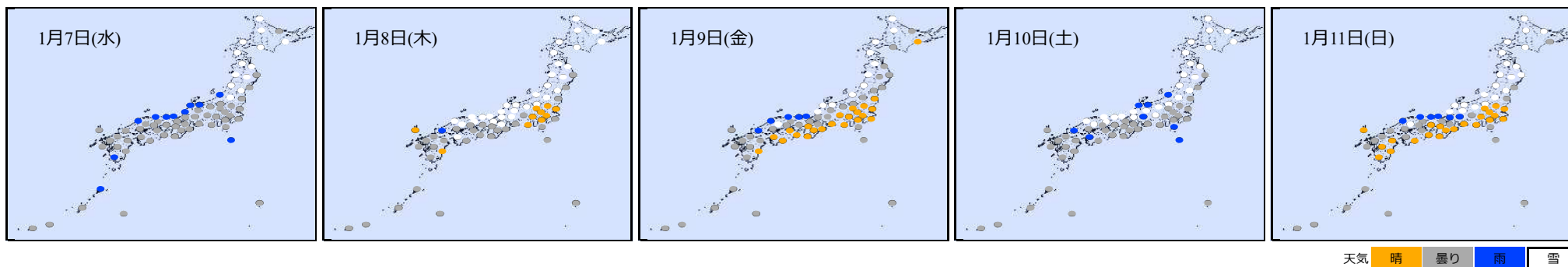
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 8日は、低気圧が発達しながらオホーツク海へ進み、冬型の気圧配置が強まるため、北日本から東日本にかけての日本海側を中心に荒れた天気となり、冬型の気圧配置の強まりの程度によっては、大荒れや大しけとなる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

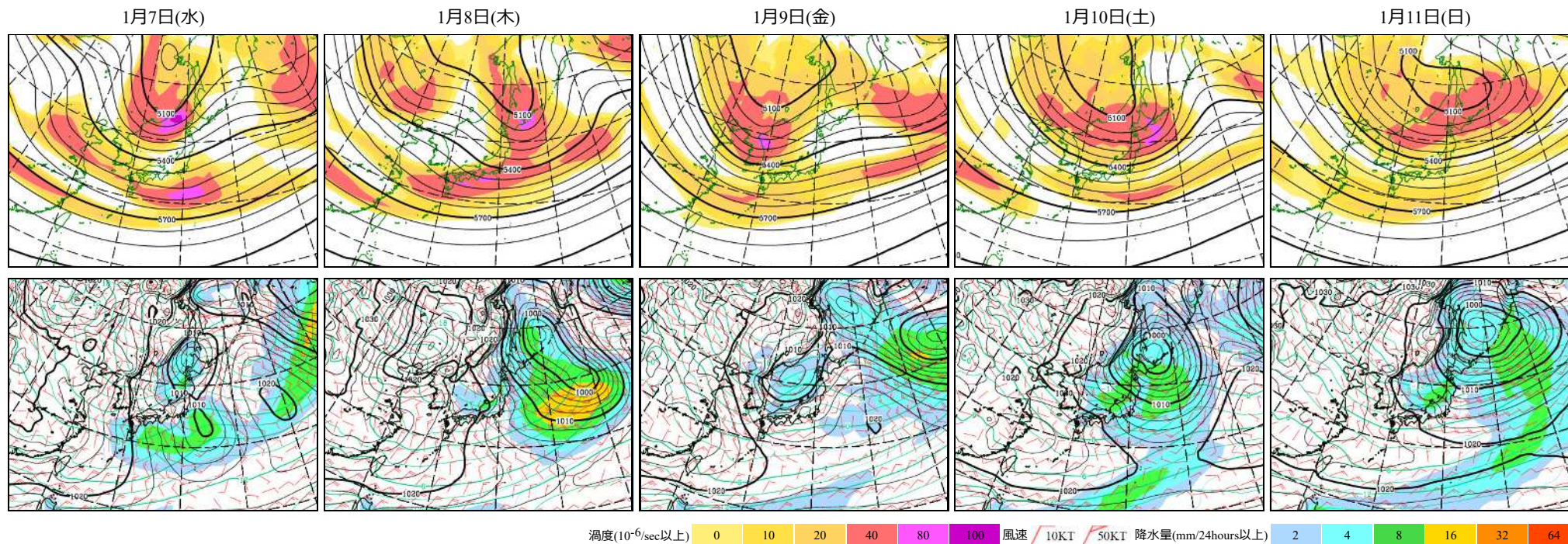
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

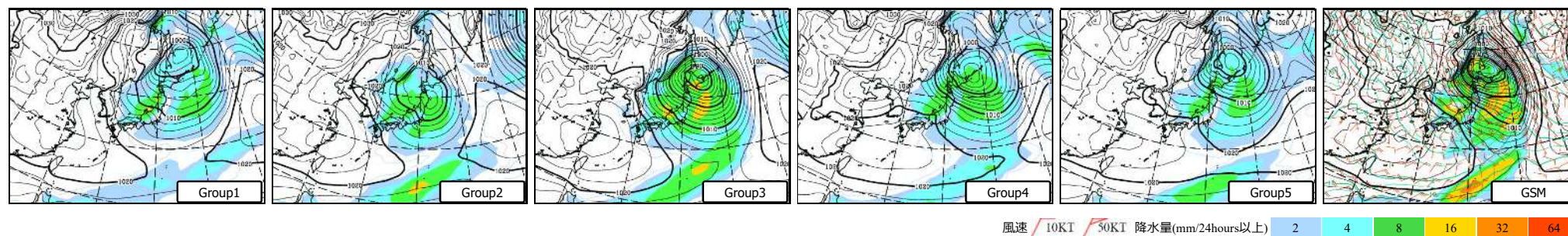


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りや晴れる日が多いが雨または雪の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、7日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月10日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、7日は日本の南を進む低気圧が弱まり、東・西日本太平洋側の降水確率が小さくなった。また、寒気が弱まり、西日本日本海側の降水確率も小さくなった。10日頃は、日本付近へ進むトラフが深くなり、北日本付近へ進む低気圧が強まった。
- 各モデルとも、9日から10日は低気圧が日本海からサハリン付近へ進み、前線が日本付近を通過する予想は昨日資料より揃ってきた。
- スプレッドは、期間の終わりは大きくなり、5400mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。